

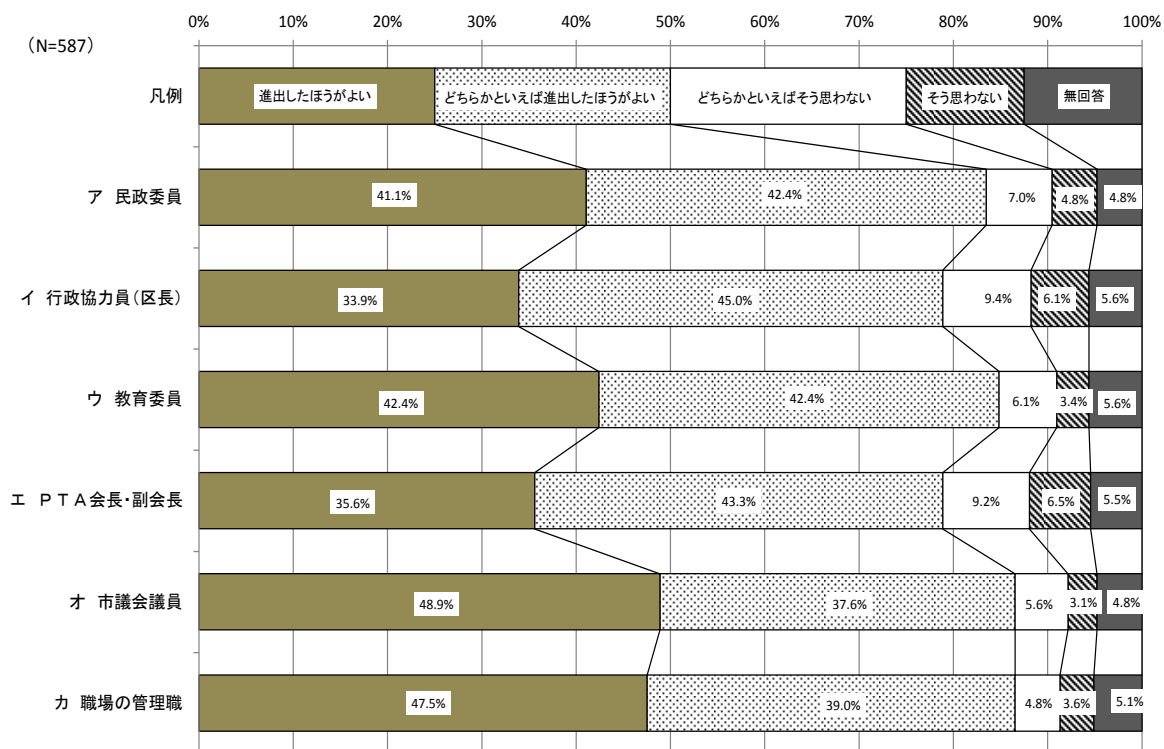
## 第5章 男女共同参画の推進について

### 1. 指導的立場の役職への女性の進出

問23 あなたは、指導的立場にある次の役職に女性がもっと進出したほうがよいと思いますか。それとも、そうは思いませんか。ア～カのそれぞれについて、1～4の中から1つずつ選び、○で囲んでください。

6つの指導的立場への女性の進出について、「進出したほうがよい」が高いのは「市議会議員」48.9%、「職場の管理職」47.5%である。「どちらかといえば進出したほうがよい」を加えた積極派はすべての立場（78.9%～86.5%）で高かった。

#### <総括>



## ア) 民生委員

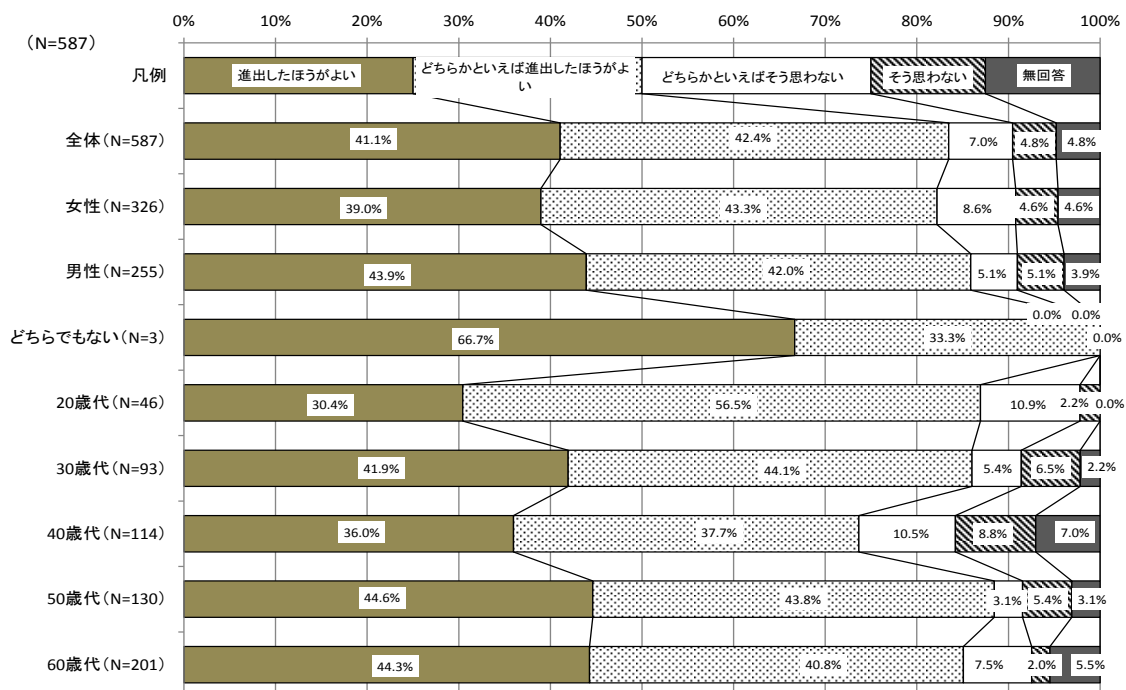
「進出したほうがよい」41.1%、「どちらかといえば進出したほうがよい」42.4%を合計した「積極派」は83.5%である。「どちらかといえばそう思わない」7.0%、「そう思わない」4.8%を合計した「消極派」11.8%となっている。

「積極派」についてみると、性別では、男性85.9%、女性82.3%と男女では大きな差がみられない。

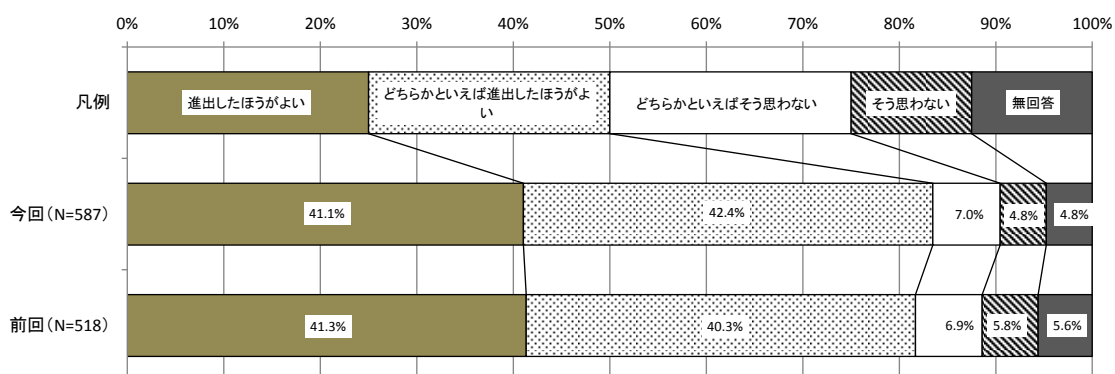
年代別では、50歳代88.4%、20歳代86.9%、30歳代86.0%で高く、40歳代73.7%と最も低い。

前回調査との大きな違いはみられなかった。

### <民生委員>



### <前回との比較>



## イ) 行政協力員（区長）

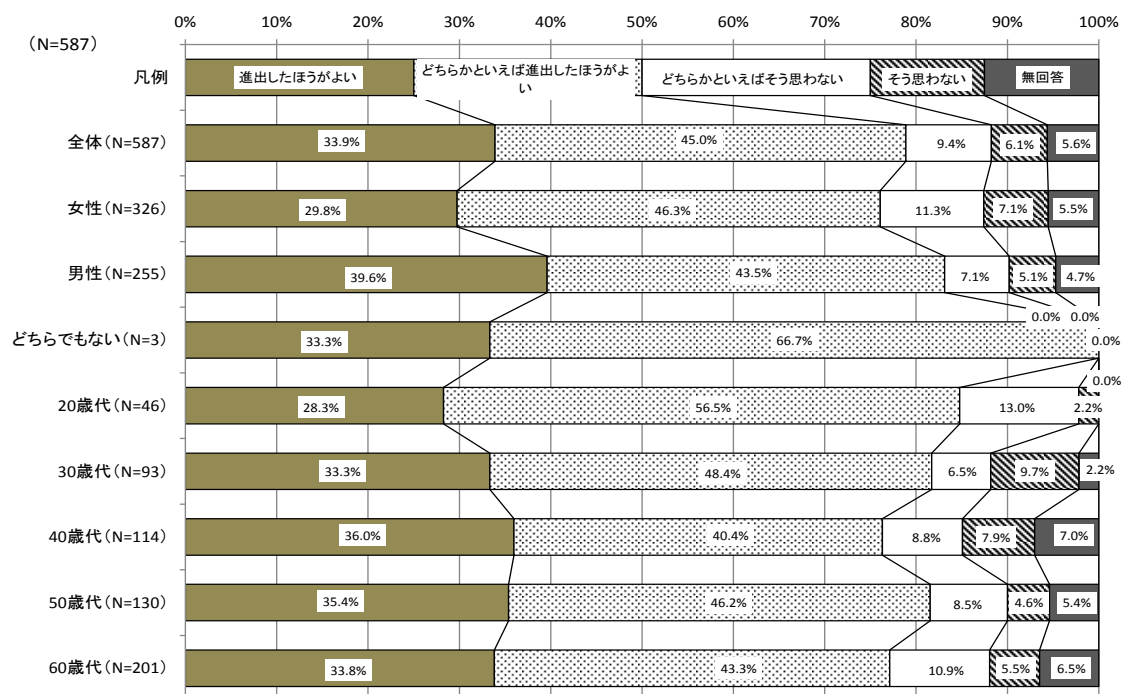
「進出したほうがよい」33.9%、「どちらかといえば進出したほうがよい」45.0%を合計した「積極派」は78.9%である。「どちらかといえばそう思わない」9.4%、「そう思わない」6.1%を合計した「消極派」15.5%となっている。

「積極派」についてみると、性別では、男性83.1%、女性76.1%と女性が男性に比べて7.0ポイント低い。

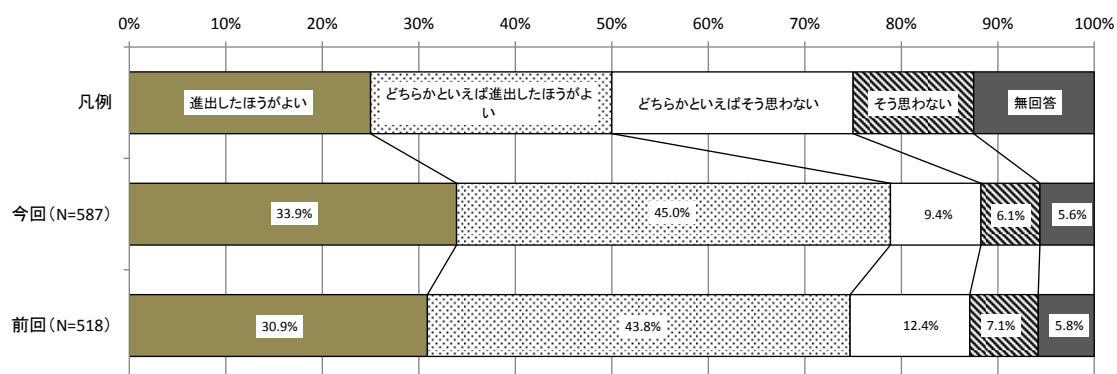
年代別では、20歳代84.8%、30歳代81.7%、50歳代81.6%で高く、40歳代76.4%と最も低い。

前回調査より「進出したほうがよい」が3.0ポイント増えている。

### <行政協力員（区長）>



### <前回との比較>



## ウ) 教育委員

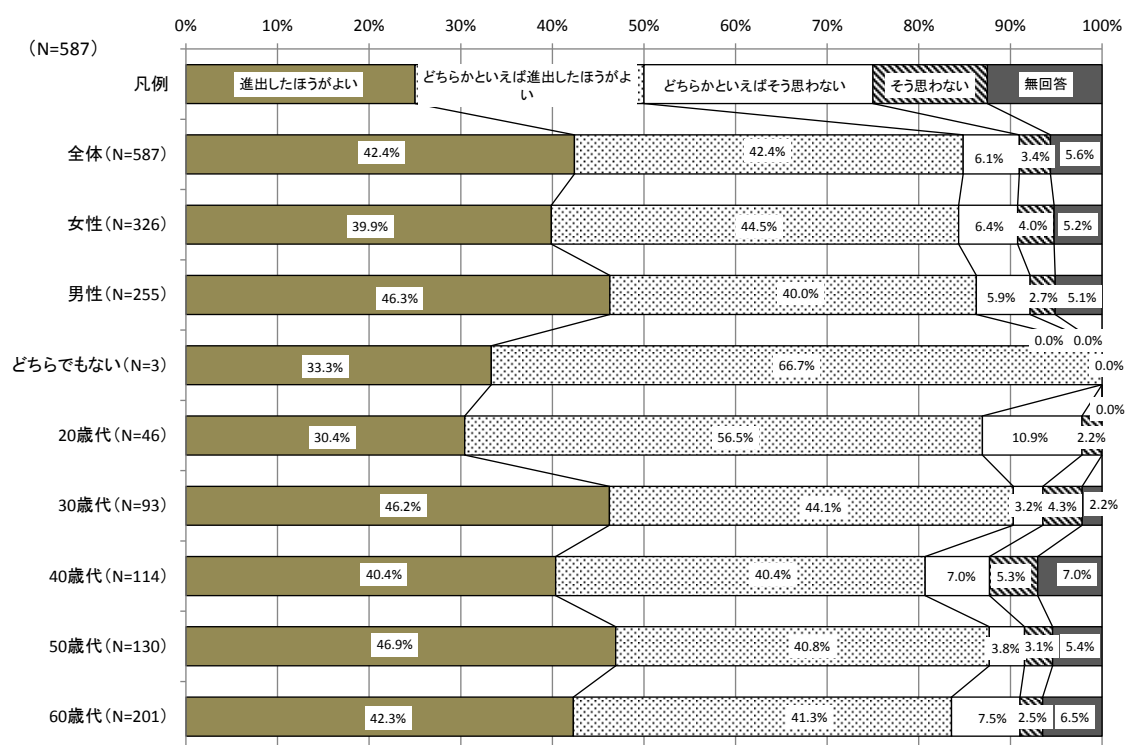
「進出したほうがよい」42.4%、「どちらかといえば進出したほうがよい」42.4%を合計した「積極派」は84.8%である。「どちらかといえばそう思わない」6.1%、「そう思わない」3.4%を合計した「消極派」9.5%となっている。

「積極派」についてみると、性別では、男性86.3%、女性84.4%と女性に比べ男性の方が高い。

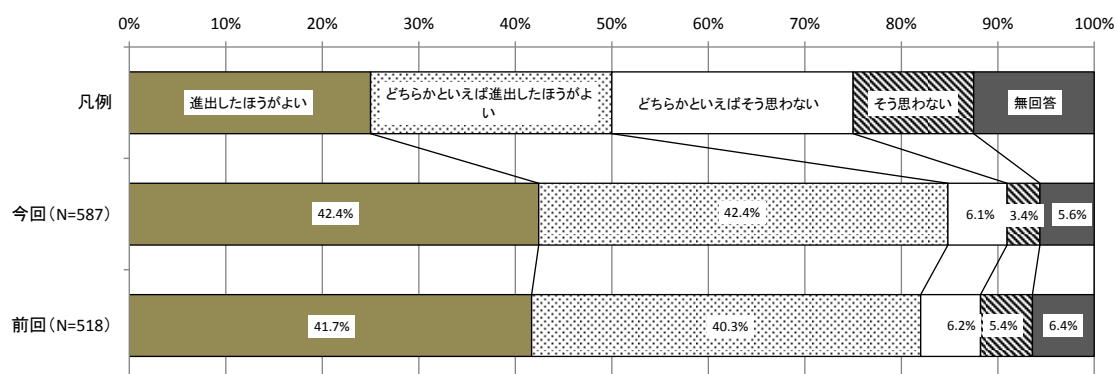
年代別では、30歳代90.3%、50歳代87.7%で高く、40歳代80.8%と最も低い。

前回調査との大きな違いはみられなかった。

### <教育委員>



### <前回との比較>



## 工) PTA会長・副会長

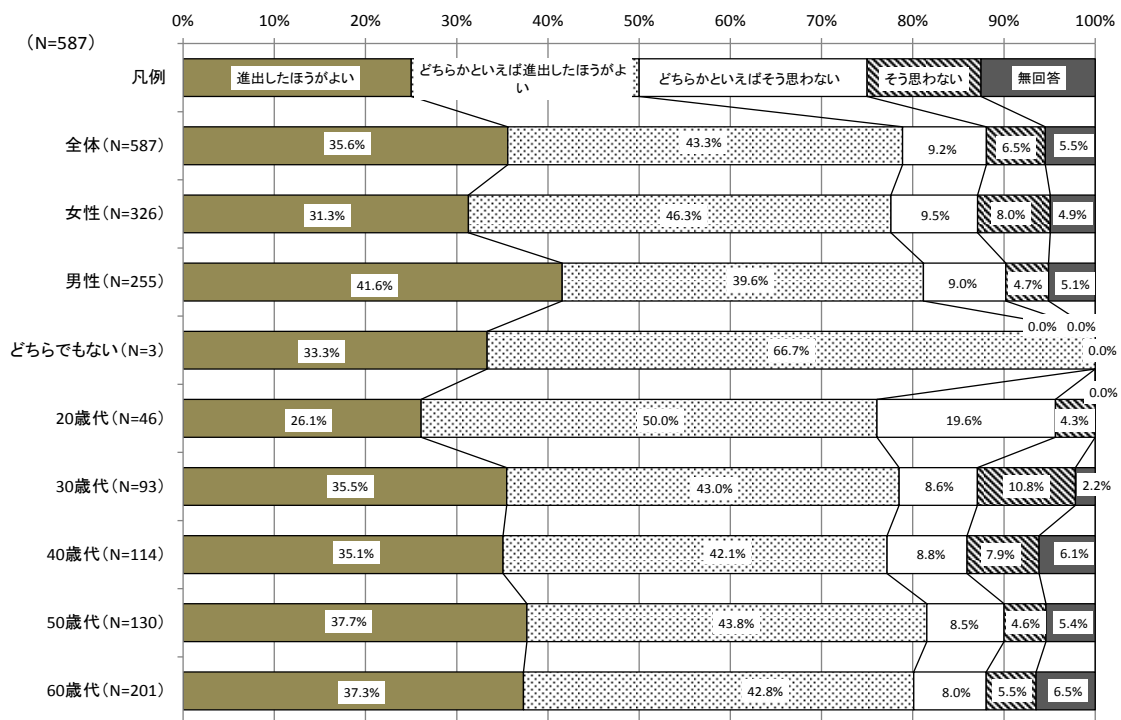
「進出したほうがよい」35.6%、「どちらかといえば進出したほうがよい」43.3%を合計した「積極派」は78.9%である。「どちらかといえばそう思わない」9.2%、「そう思わない」6.5%を合計した「消極派」15.7%となっている。

「積極派」についてみると、性別では、男性81.2%、女性77.6%と女性に比べて男性の方が3.6ポイント高い。

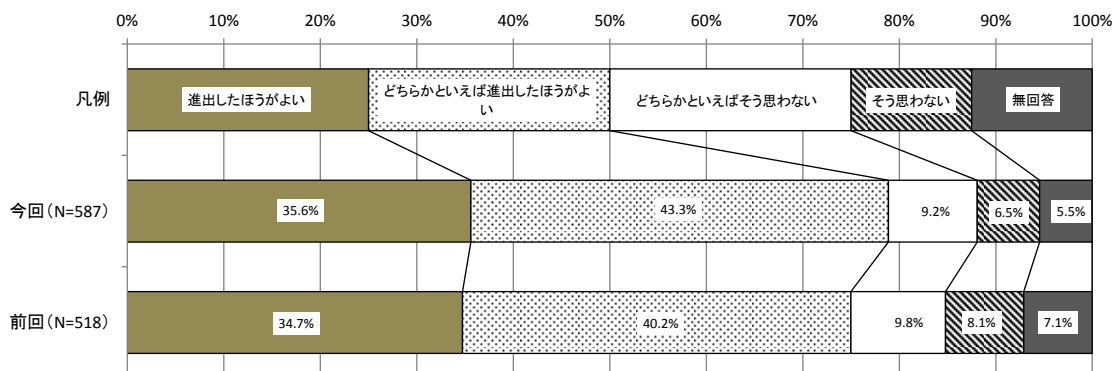
年代別では、50歳代81.5%、60歳代80.1%と高く、20歳代76.1%と最も低い。

前回調査より「積極派」は4ポイント高くなっている。

### <PTA会長・副会長>



### <前回との比較>



## オ) 市議会議員

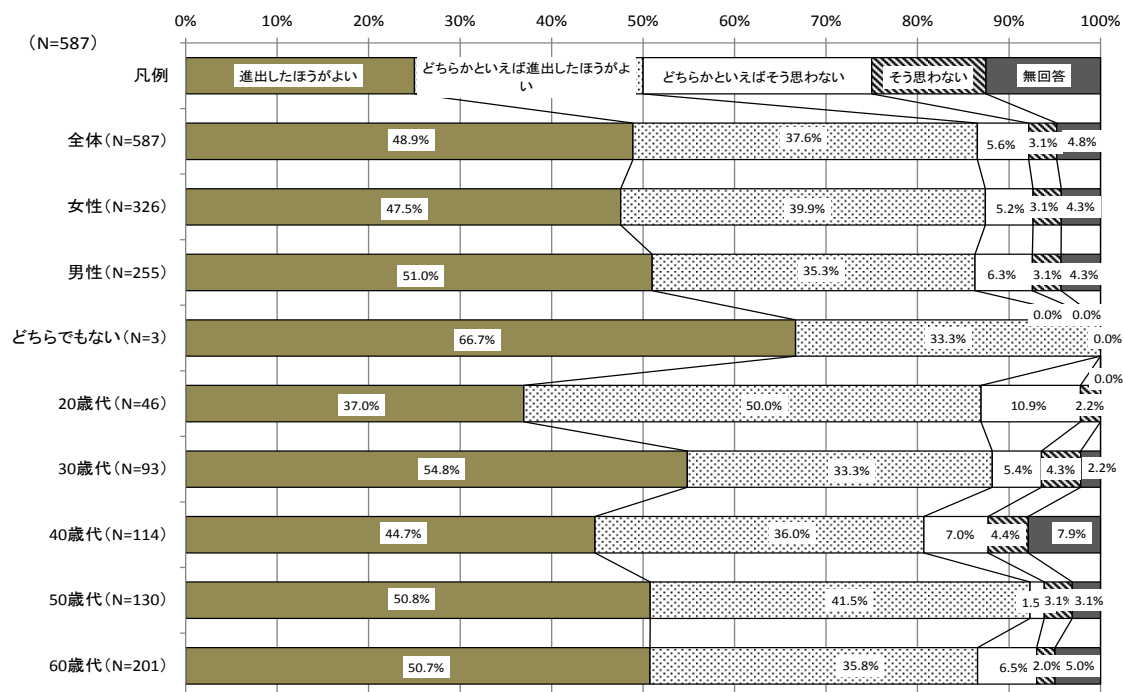
「進出したほうがよい」48.9%、「どちらかといえば進出したほうがよい」37.6%を合計した「積極派」は86.5%である。「どちらかといえばそう思わない」5.6%、「そう思わない」3.1%と合計した「消極派」8.7%となっている。

「積極派」についてみると、性別では、男性86.3%、女性87.4%と女性のほうが高い。

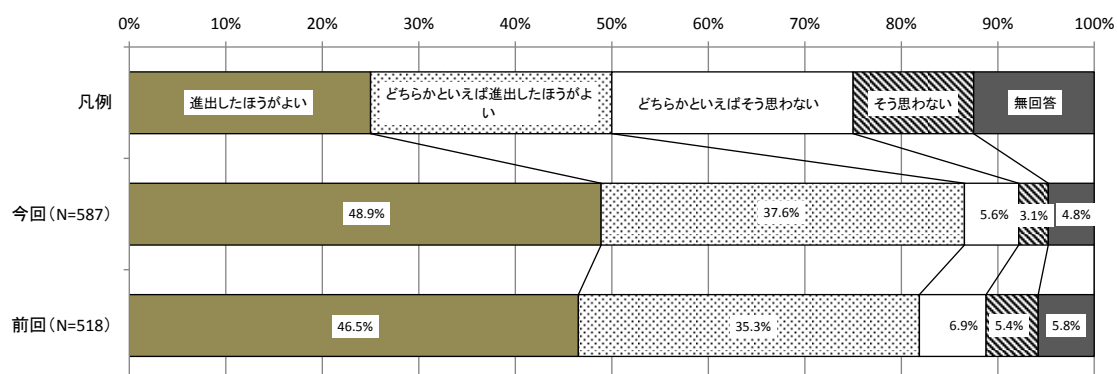
年代別では50歳代92.3%、30歳代88.1%、20歳代87.0%が高く、40歳代80.7%が最も低い。

「積極派」は前回調査から4.7ポイント高くなっている。

### <市議会議員>



### <前回との比較>



## カ) 職場の管理職

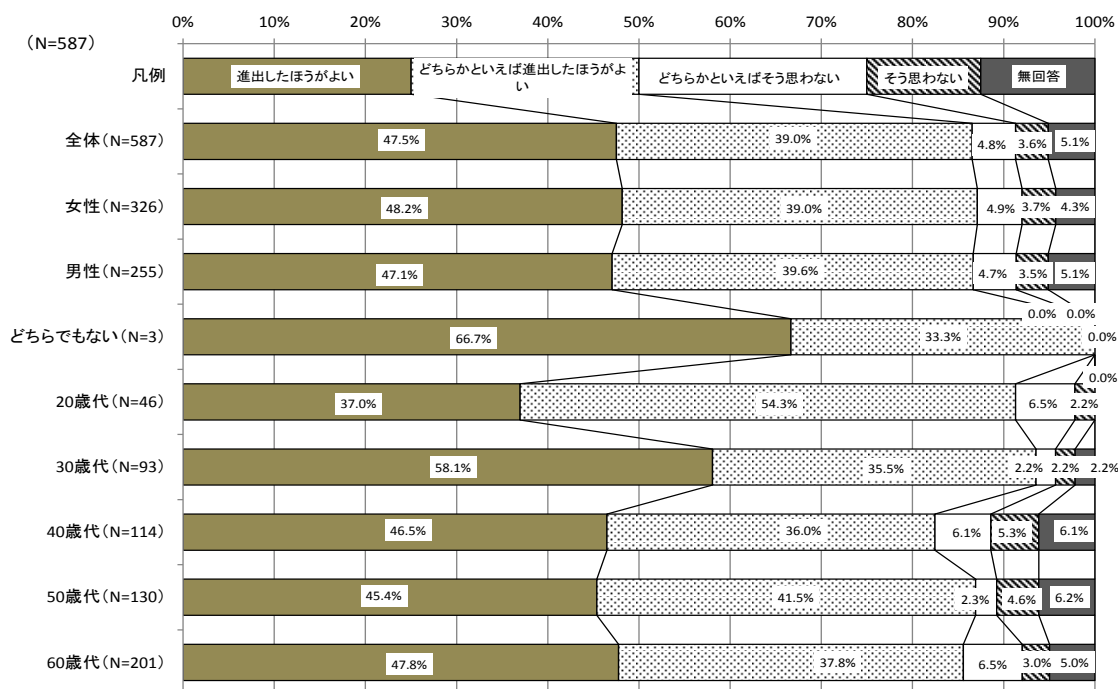
「進出したほうがよい」47.5%、「どちらかといえば進出したほうがよい」39.0%を合計した「積極派」は86.5%である。「どちらかといえばそう思わない」4.8%、「そう思わない」3.6%と合計した「消極派」8.4%となっている。

「積極派」についてみると、性別では、男性86.7%、女性87.2%と男性に比べて女性のほうがやや高い。

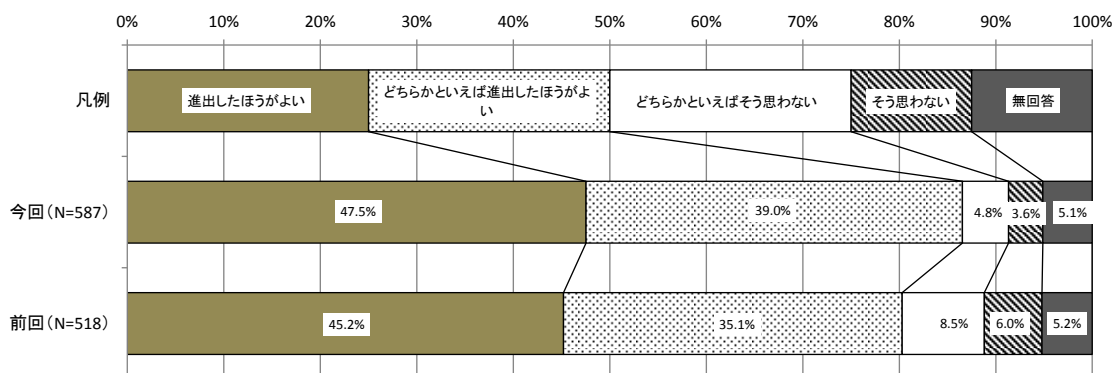
年代別では、30歳代93.6%、20歳代91.3%と若い世代が高く、40歳代82.5%と最も低い。

「積極派」は前回調査より6.2ポイント高くなっている。

### <職場の管理職>



### <前回との比較>



## 2. 地域等の団体の代表に女性が少ない理由

問24 自治体やPTAの会長など、地域等の団体の代表に女性が少ない原因は何だと思いますか。次の1～9の中から選び、○で囲んでください。(いくつでも)

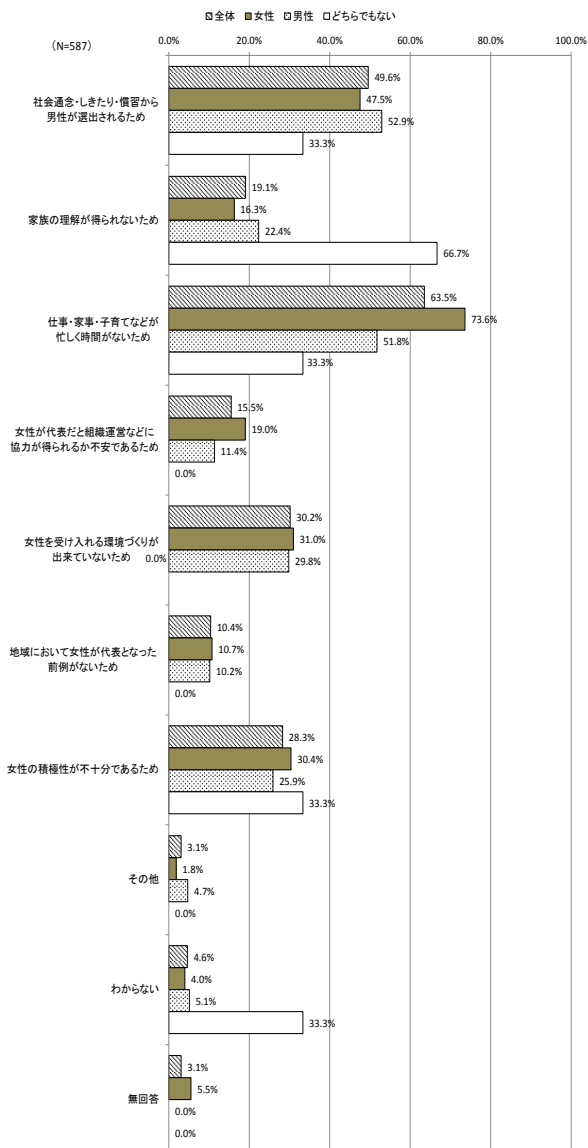
地域等の団体の代表に女性が少ない理由について、最も多かった回答は「仕事・家事・子育てなどが忙しく時間がないため」63.5%、次いで「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」49.6%、「女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため」30.2%、「女性の積極性が不十分であるため」28.3%の順であった。

性別に最も多い回答をみると、男性は「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」52.9%、女性は「仕事・家事・子育てなどが忙しく時間がないため」73.6%であり、求める原因内容に違いがあった。

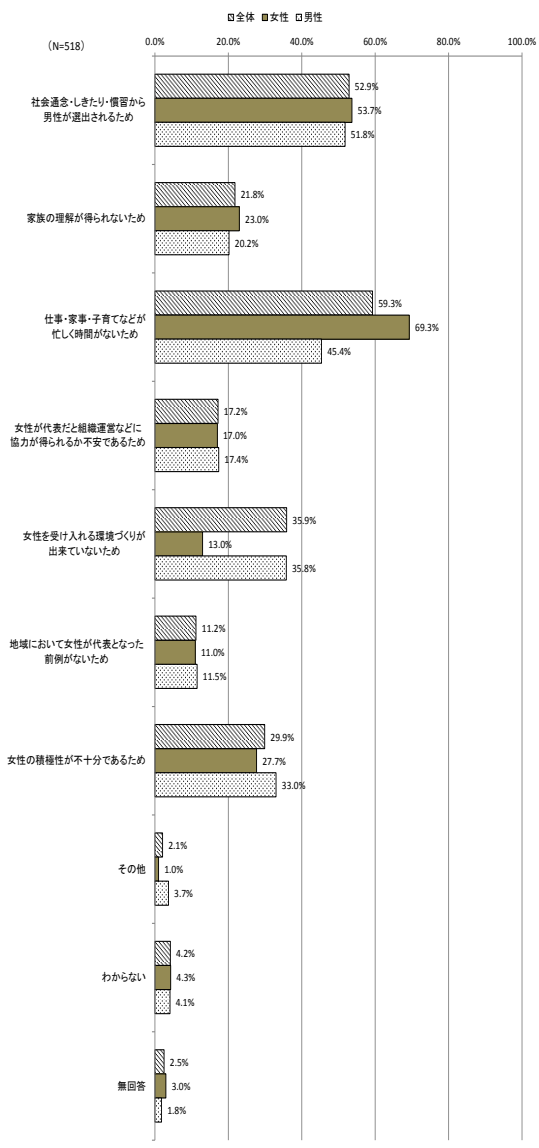
前回調査との違いは「仕事・家事・子育てなどが忙しく時間がないため」が4.2ポイント高くなり、一方で「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」が3.3ポイント低くなったことである。



<今回(R2)>



<前回(H27)>



### 3. 方針決定の場に女性の参画が少ない理由

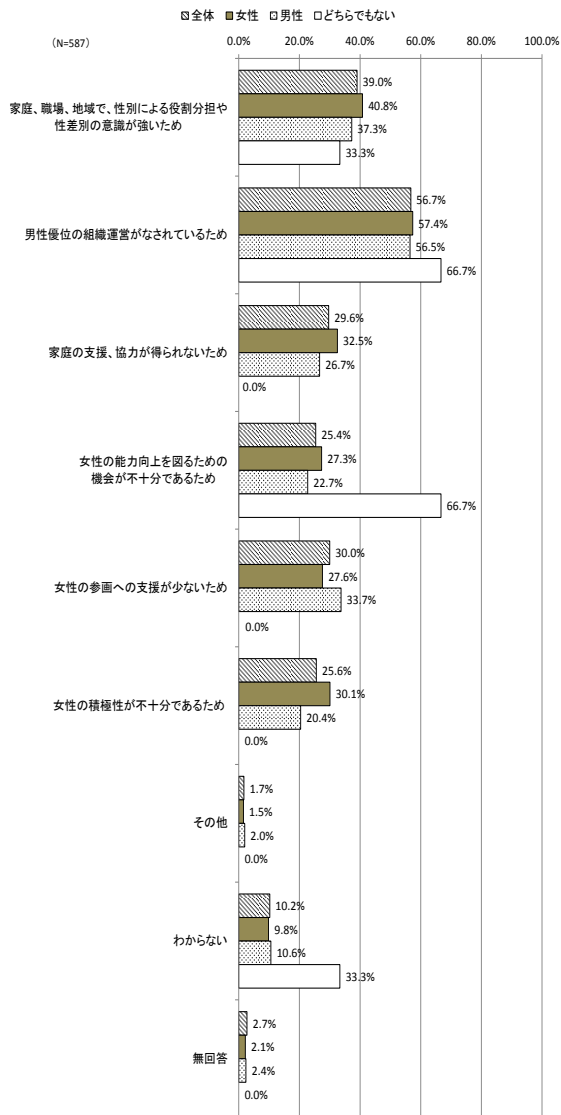
問25 「政治や行政、職場などにおいて、企画立案や方針決定の場に女性の参画が  
いまだ少ない」と言われていますが、あなたは、その原因は何だと思いま  
すか。次の1～8の中から選び、○で囲んでください。(いくつでも)

政治や行政、職場などにおいて、企画立案や方針決定の場に女性の参画がいまだ少ない理由について、最も多かったものは、「男性優位の組織運営がなされているため」56.7%、次いで、「家庭・職場・地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため」39.0%、「女性の参画への支援が少ないため」30.0%、「家庭の支援・協力が得られないため」29.6%、「女性の積極性が不十分であるため」25.6%、「女性の能力向上を図るための機会が不十分であるため」25.4%の順であった。

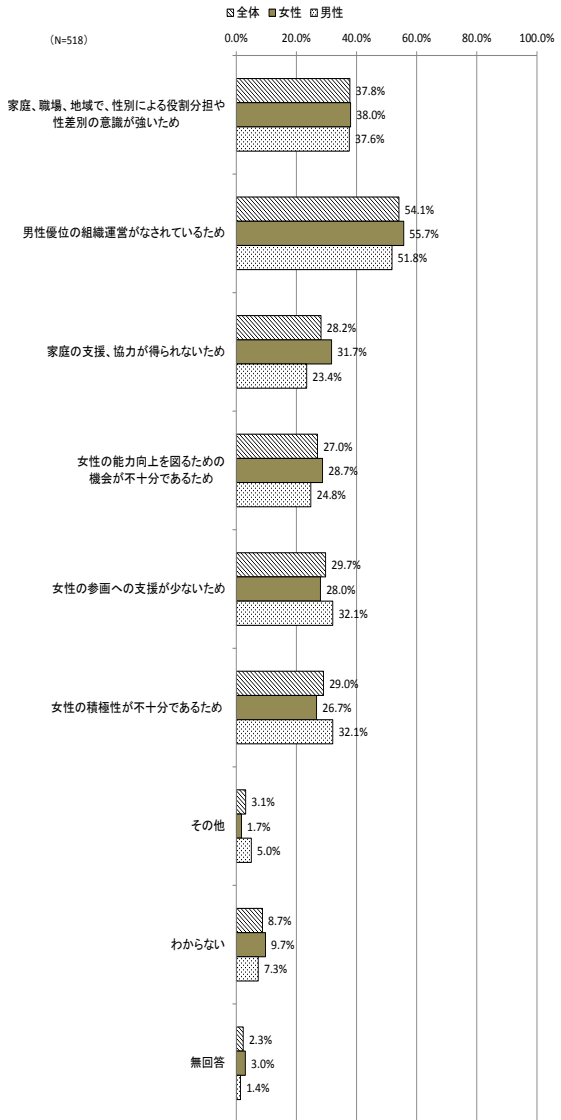
性別で見ると、「女性の能力向上を図るための機会が不十分であるため」で女性が4.6ポイント、「家庭の支援・協力が得られないため」で女性が5.8ポイント、「女性の積極性が不十分であるため」で女性が9.7ポイント高かった。

前回調査より、ほとんどの項目で今回調査の回答比率が高くなっていたが、「女性の積極性が不十分であるため」が3.4ポイント低くなった。

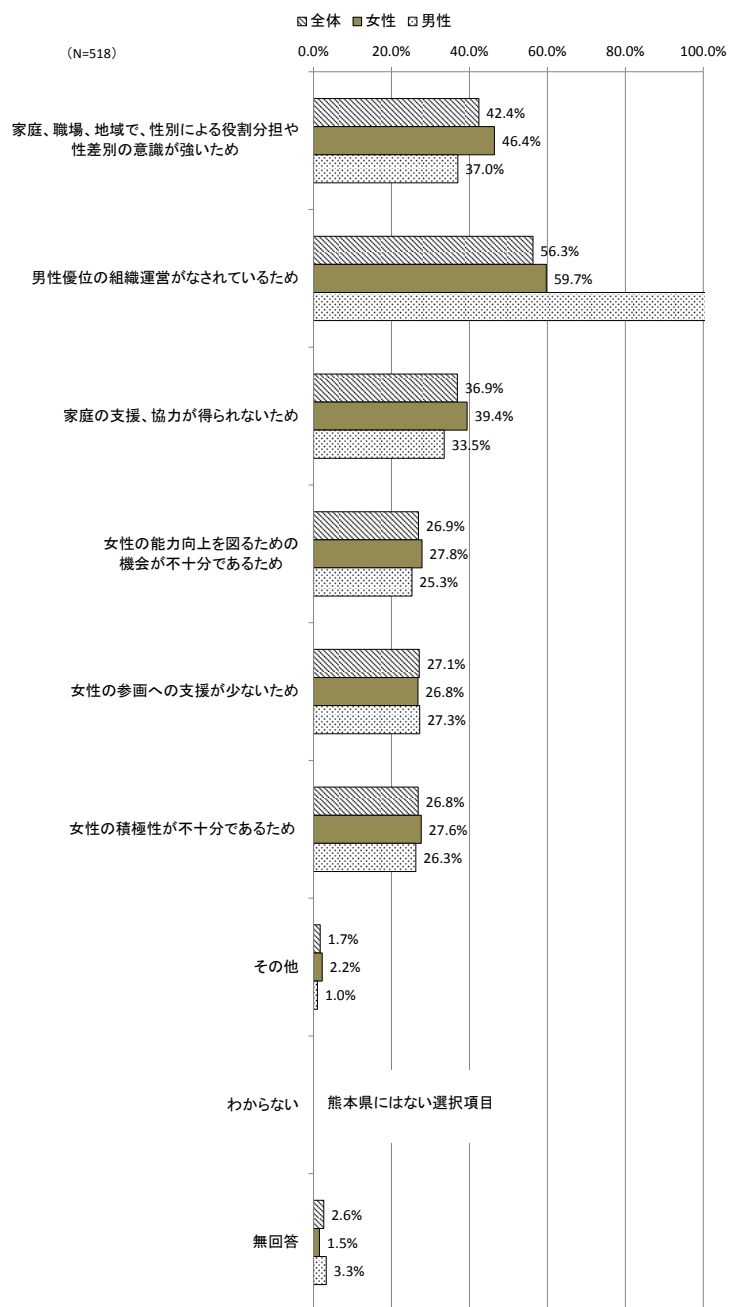
<今回(R2)>



<前回(H27)>



<熊本県(R1)>



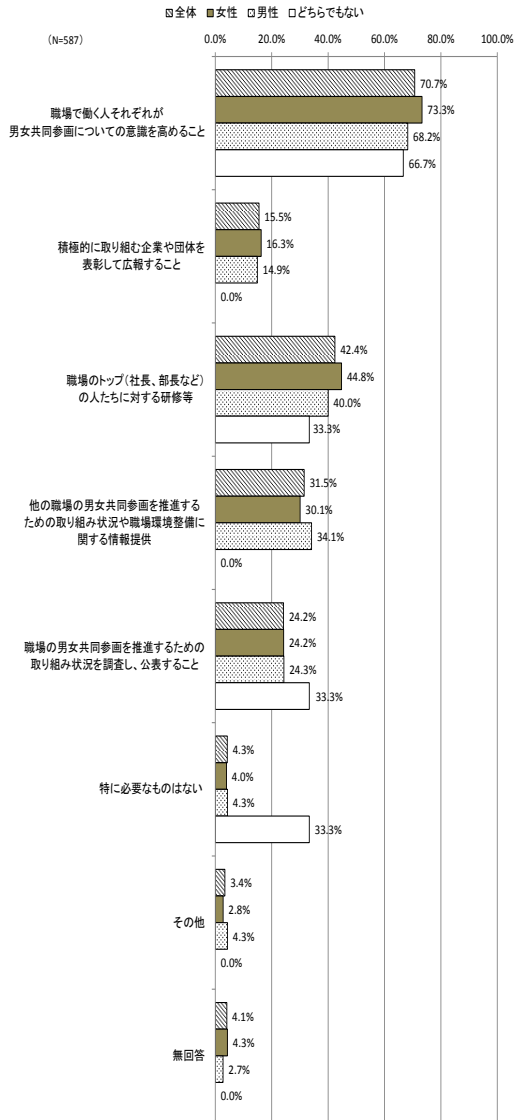
#### 4. 職場における推進施策

問26 職場で男女共同参画社会づくりが積極的に進むために必要なことは何だと思  
いますか。次の1～7の中から選び、○で囲んでください。(いくつでも)

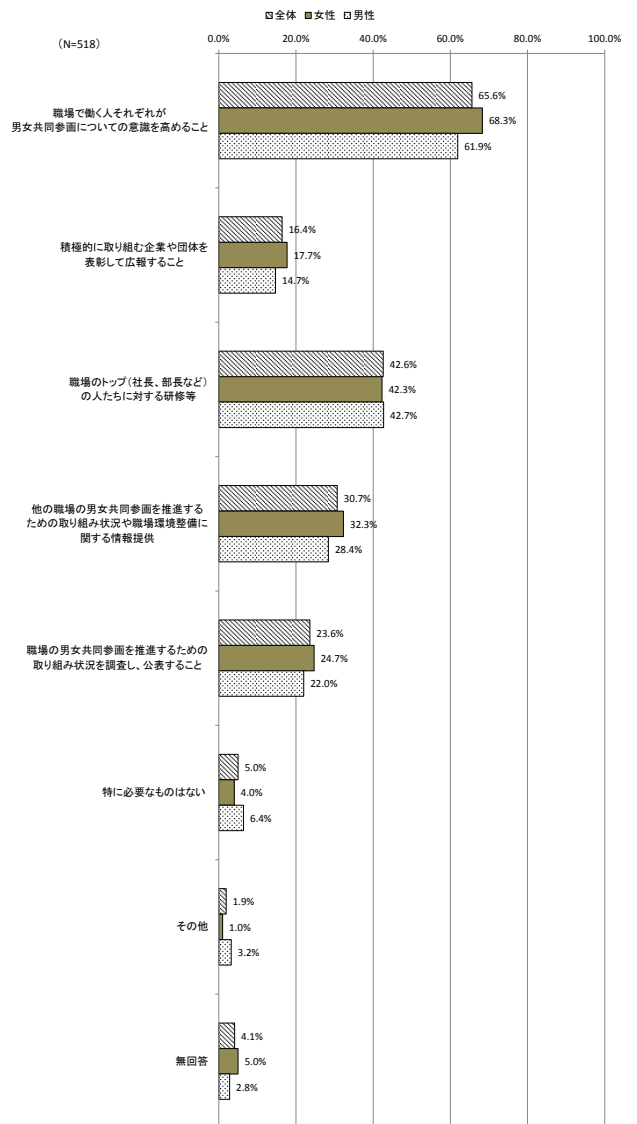
職場での男女共同参画社会づくりの推進に必要なことについて、最も多かった回答は「職場で働く人それぞれが男女共同参画についての意識を高めること」70.7%で、次いで「職場のトップ（社長、部長など）の人たちに対する研修等」42.4%、「他の職場の男女共同参画を推進するための取り組み状況や職場環境整備に関する情報提供」31.5%、「職場の男女共同参画を推進するための取り組み状況を調査し、公表すること」24.2%であった。

性別で見ると、「職場で働く人それぞれが男女共同参画についての意識を高める」は女性が5.1ポイント高いのが目立った。

<今回(R2)>



<前回(H27)>



## 5. 農林水産業における推進施策

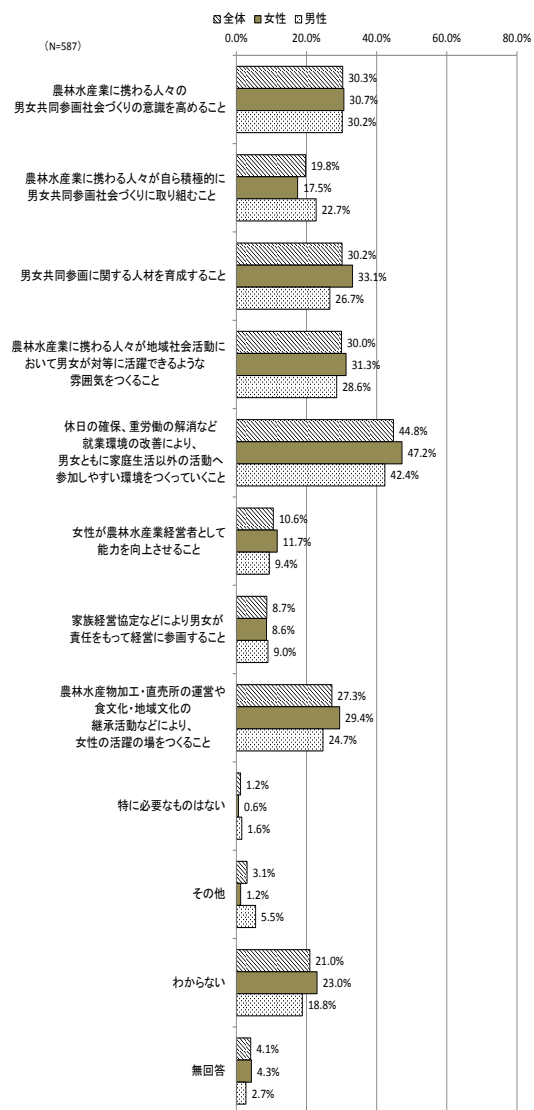
問27 農林水産業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なことは何だと思  
いますか。次の1～11の中から選び、○で囲んでください。(いくつでも)

農林水産業の分野で男女共同参画を推進するために必要なことについては、全体と  
では「休日の確保・重労働の解消など就業環境の改善により、男女ともに家庭生活以  
外の活動へ参加しやすい環境をつくっていくこと」44.8%、「農林水産業に携わる人々  
の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」30.3%、「男女共同参画に関する人材  
を育成すること」30.2%の順で高かった。

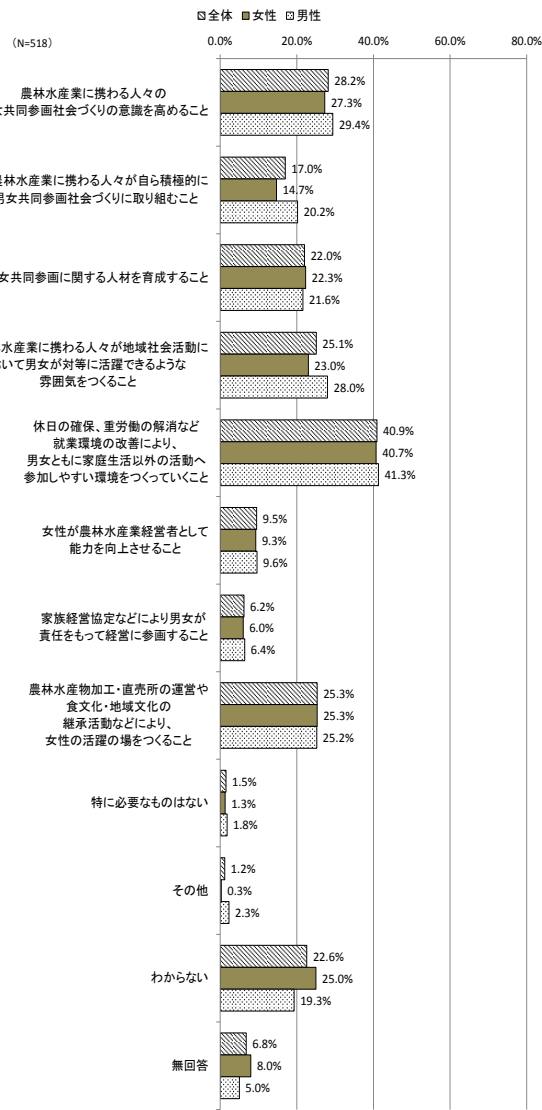
性別でみても、順位はほぼ同じで就業環境の改善と新たな活躍の場の創造が求めら  
れていた。

前回調査との大きな違いは、「休日の確保・重労働の解消など就業環境の改善により、  
男女ともに家庭生活以外の活動へ参加しやすい環境をつくっていくこと」が 3.9 ポイ  
ント高くなったことである。

<今回(R2)>



<前回(H27)>





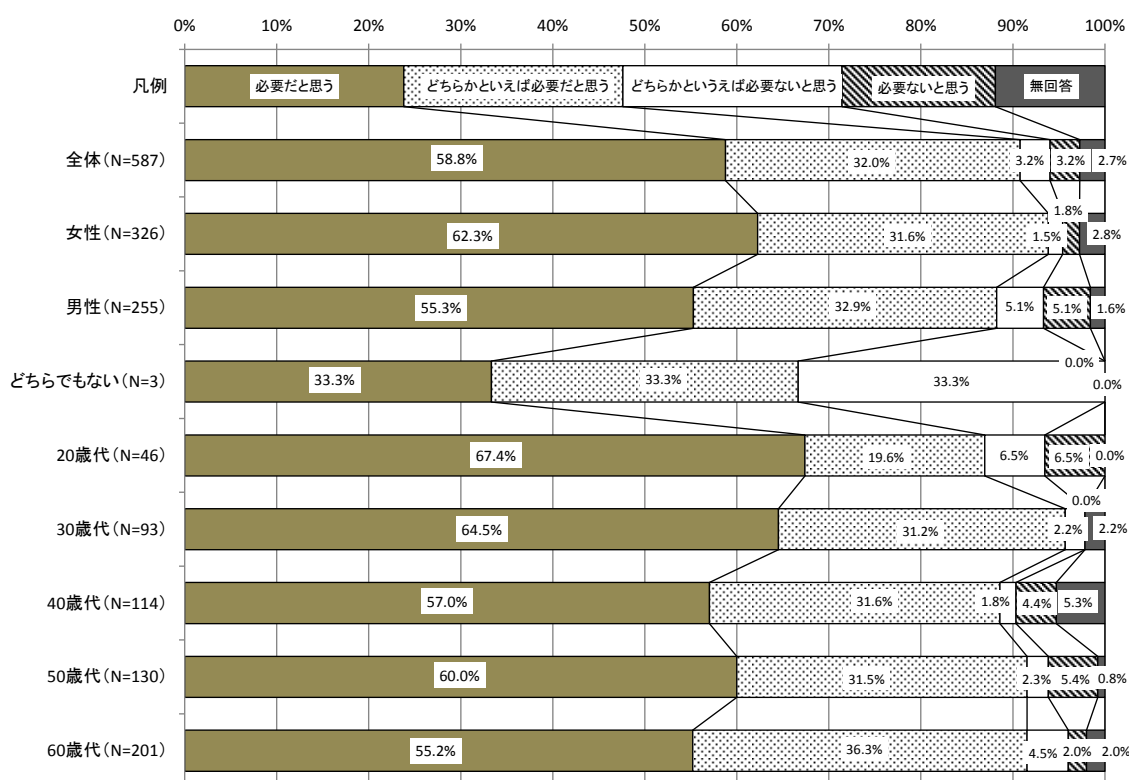
## 6. 防災・災害復興対策における性別への配慮の要否

問28 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。  
次の1～4の中から1つだけ選び、○で囲んでください。

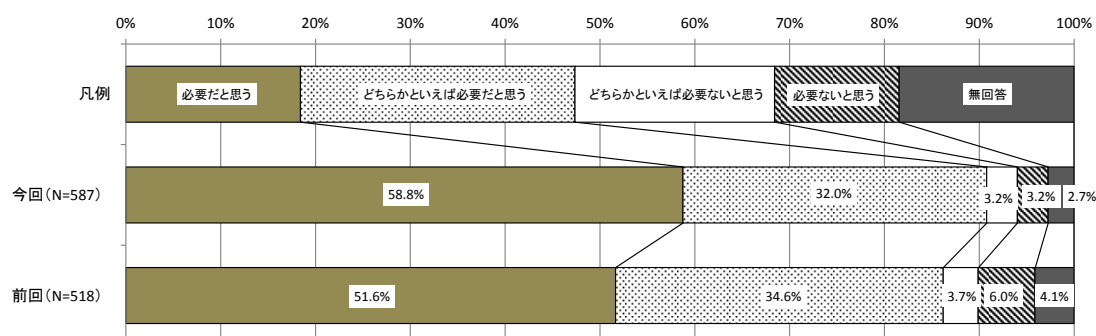
防災・災害復興対策において性別に配慮した対応が「必要だと思う」58.8%、「どちらかといえば必要である」32.0%と、合計約9割が必要性を感じていた。

性別にみると、男性は「必要だと思う」55.3%、「どちらかといえば必要である」32.9%で、女性は「必要だと思う」62.3%、「どちらかといえば必要である」31.6%と、女性が多く必要性を支持している。

年代別にみると、必要（「必要だと思う」＋「どちらかといえば必要だと思う」）と答えた人は、30歳代で95.7%（64.5%＋31.2%）が最も高かった。前回との比較では「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」の合計が4.6ポイント高かった。



### <前回との比較>



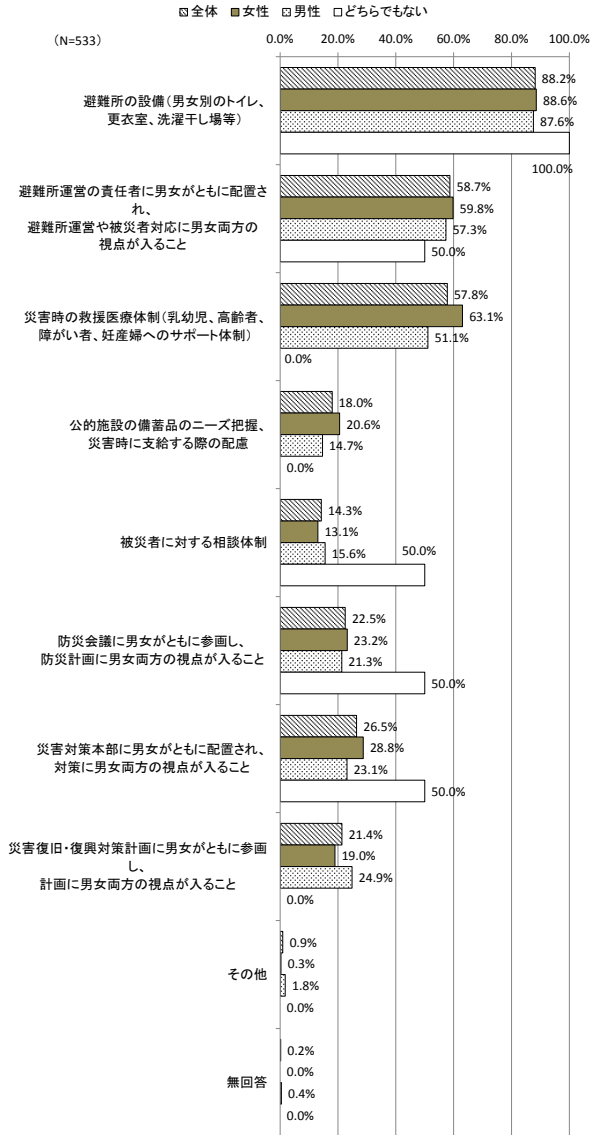
## 7. 防災・災害復興対策における性別への配慮が必要なこと

問28-1 問28で「1. 必要だと思う」又は「2. どちらかといえば必要だと思う」と回答した方にお尋ねします。防災・災害復興において、性別に配慮した対応が必要なことは何だと思えますか。次の1～9の中から3つまで選び、○で囲んでください。

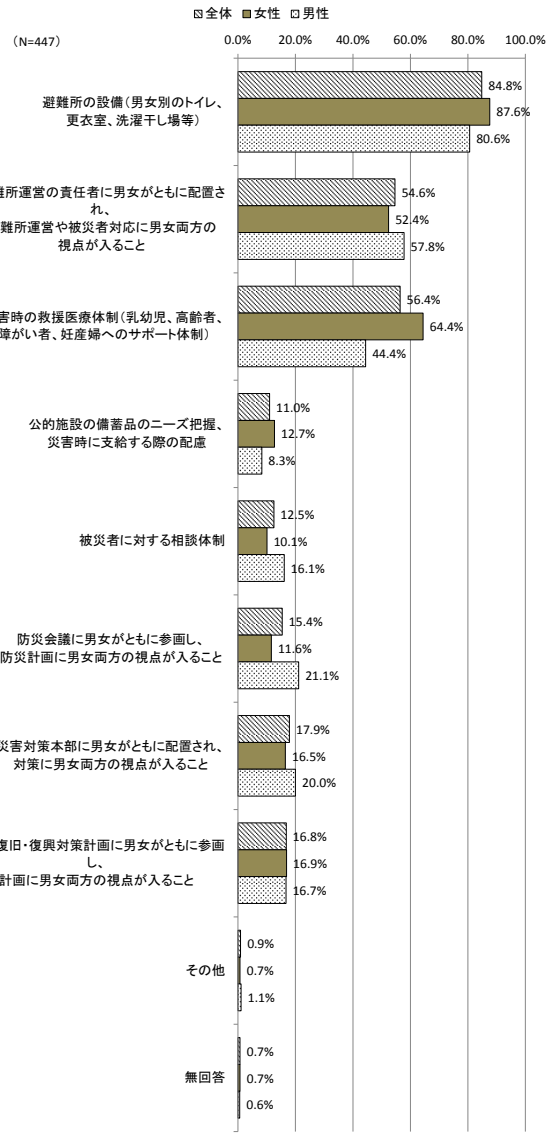
防災・災害復興対策において性別に配慮した対応が必要なことで、最も高かった回答は、「避難所の設置（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）」88.2%、次いで「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」58.7%、「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦へのサポート体制）」57.8%であった。

性別では、「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦へのサポート体制）」を選んだ男性は51.1%、女性は63.1%と女性が12.0ポイント高かった。前回との比較では、「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」が4.1ポイント高くなった。

<今回(R2)>



<前回(H27)>



## 8. 行政への推進施策の要望

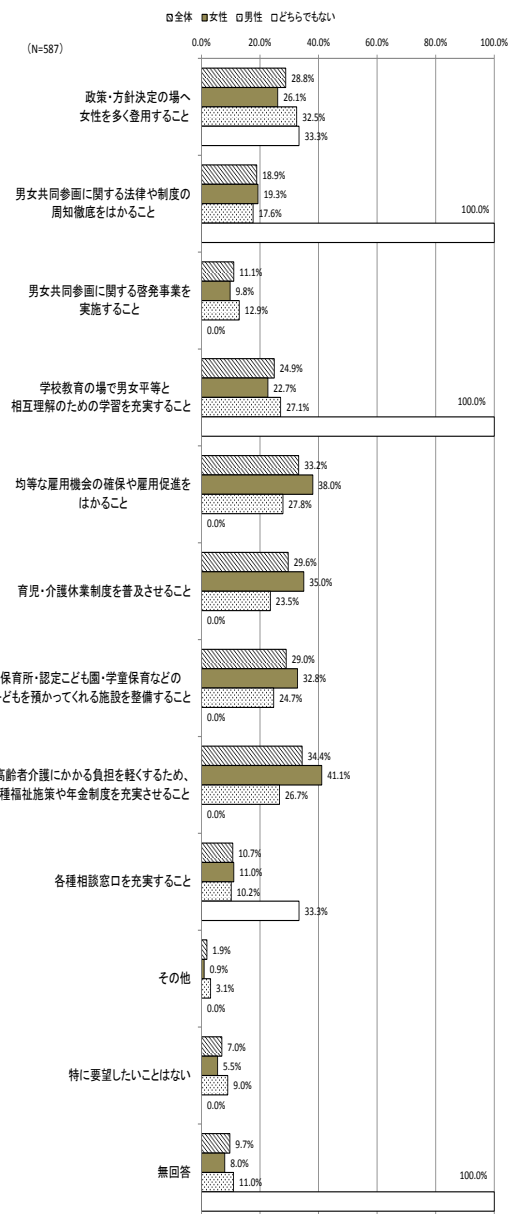
問29 あなたは、市に対して男女共同参画社会づくりのためには、どのような施策を望みますか。次の1～11の中から特に要望するものを3つまで選び、○で囲んでください。

男女共同参画社会づくりのために行政に望む施策について、最も多かった回答は、「高齢者介護にかかる負担を軽くするため、各種福祉施策や年金制度を充実させること」34.4%、次いで「均等な雇用機会の確保や雇用促進をはかること」33.2%、「育児・介護休業制度を普及させること」29.6%、「保育所・認定こども園・学童保育などの子どもを預かってくれる施設を整備すること」29.0%、「政策・方針決定の場へ女性を多く登用すること」28.8%などの順であった。

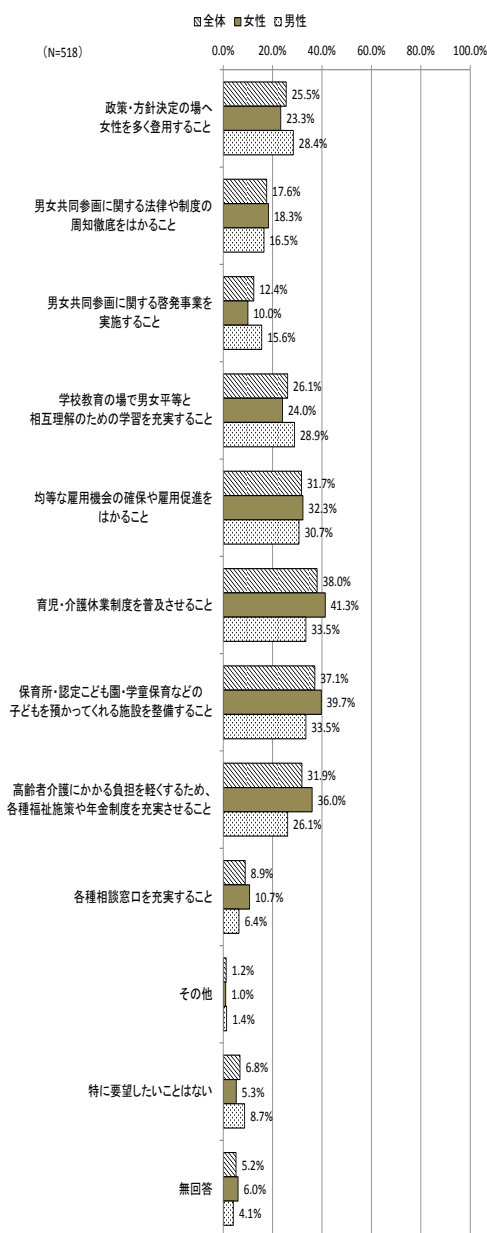
性別では、男性は「政策・方針決定の場へ女性を多く登用すること」32.5%、「均等な雇用機会の確保や雇用促進をはかること」27.8%、「学校教育の場で男女平等と相互理解のための学習を充実すること」27.1%、「高齢者介護にかかる負担を軽くするため、各種福祉施策や年金制度を充実させること」26.7%などの順で高かったのに対し、女性は「高齢者介護にかかる負担を軽くするため、各種福祉施策や年金制度を充実させること」41.1%、「均等な雇用機会の確保や雇用促進をはかること」38.0%、「育児・介護休業制度を普及させること」35.0%などの順で高くなり、要望の重点に違いがみられる。また、女性は「保育所・認定こども園・学童保育などの子どもを預かってくれる施設を整備すること」32.8%あるのに対して、男性は24.7%で、子育てに関する要望に男女差があった。

前回調査より「育児・介護休業制度を普及させること」、「保育所・認定こども園・学童保育などの子どもを預かってくれる施設を整備すること」が低くなったが、そのほかは大きな変化は見られなかった。

<今回(R2)>



<前回(H27)>

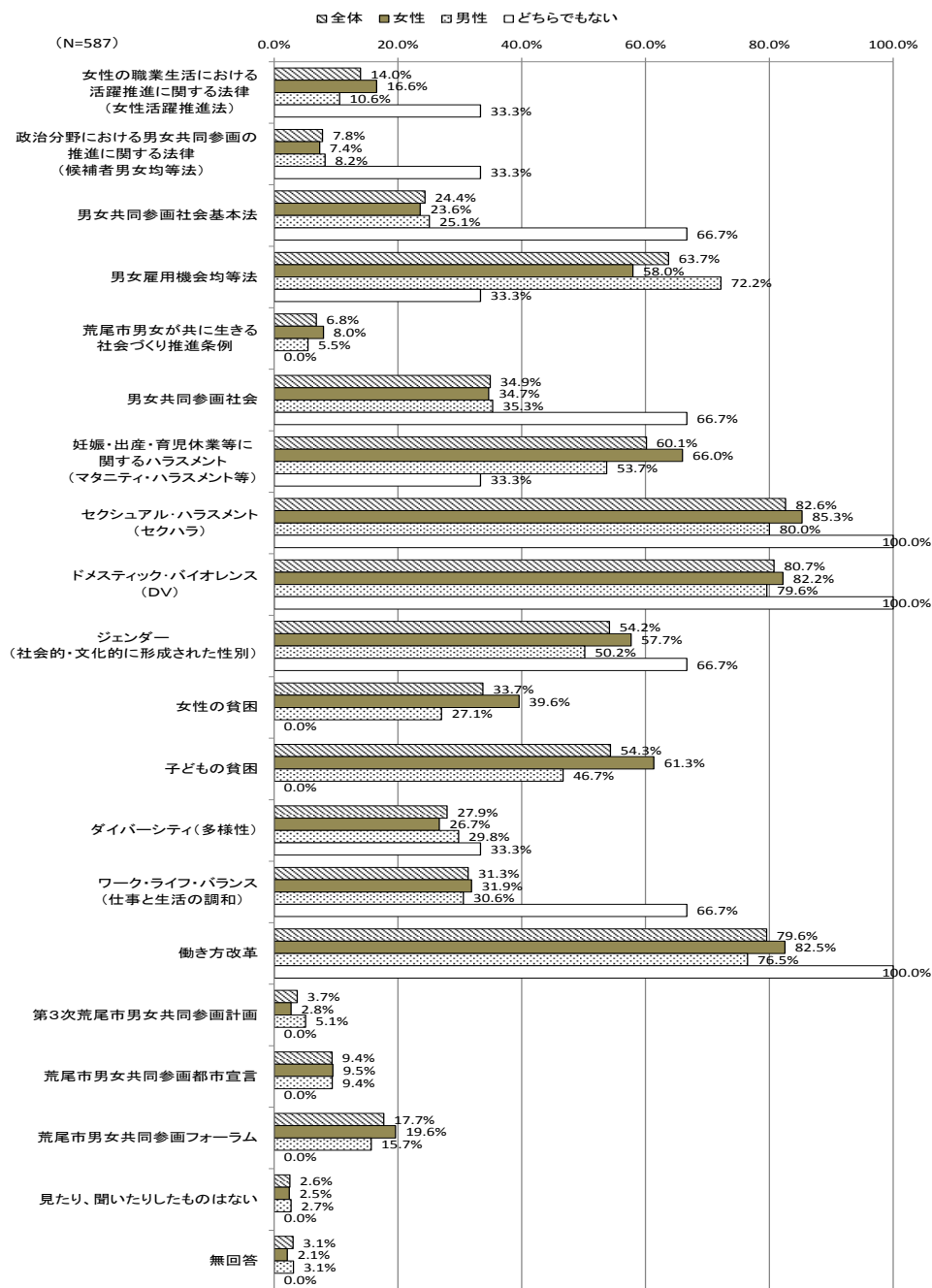


## 9. 男女共同参画の言葉の認知度

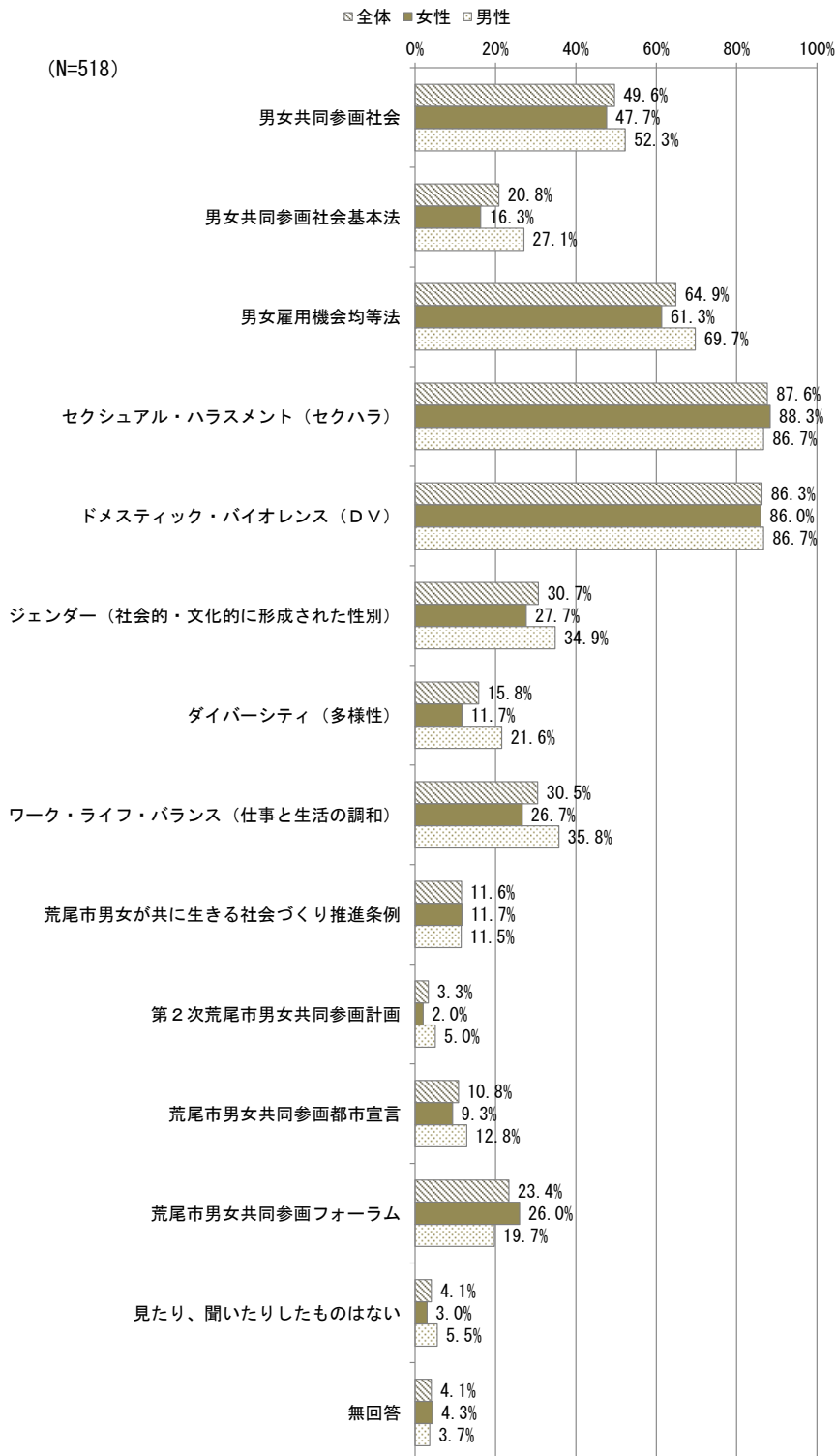
問30 次の言葉のうち、あなたが見たり、聞いたりしたことがあるものについて、次の1～19の中から選び、○で囲んでください。(いくつでも)

男女共同参画や荒尾市の取り組みに関して、見たり聞いたりしたことがある用語で、最も多かったのは、「セクシュアル・ハラスメント (セクハラ)」82.6%で、次いで「ドメスティック・バイオレンス (DV)」80.7%、「働き方改革」79.6%、「男女雇用機会均等法」63.7%、「妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメント (マタニティハラスメント等)」60.1%、「子どもの貧困」54.3%、「ジェンダー (社会的・文化的に形成された性別)」54.2%などの順で、この7つの言葉のうち男性の「子どもの貧困」を除く6つが男女で5割以上の認知度があった。前回調査では、「セクシュアル・ハラスメント (セクハラ)」87.6%、「ドメスティック・バイオレンス (DV)」86.3%、「男女雇用機会均等法」64.9%が上位となっており、最上位の2項目が今回5ポイント低くなった。なお、今回調査の選択肢、「働き方改革」、「妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメント (マタニティハラスメント等)」、「子どもの貧困」は前回調査にはなかった。また、前回調査では「男女共同参画社会」は49.6%、「ジェンダー」は30.7%という結果であったが、今回、「男女共同参画社会」は14.9ポイントの低下、「ジェンダー」は逆に23.5ポイントもの増加をみている。

<今回(R2)>



<前回(H27)>





<熊本県(R1)>

